

December 2012

## • 会報第16号の発行によせて •

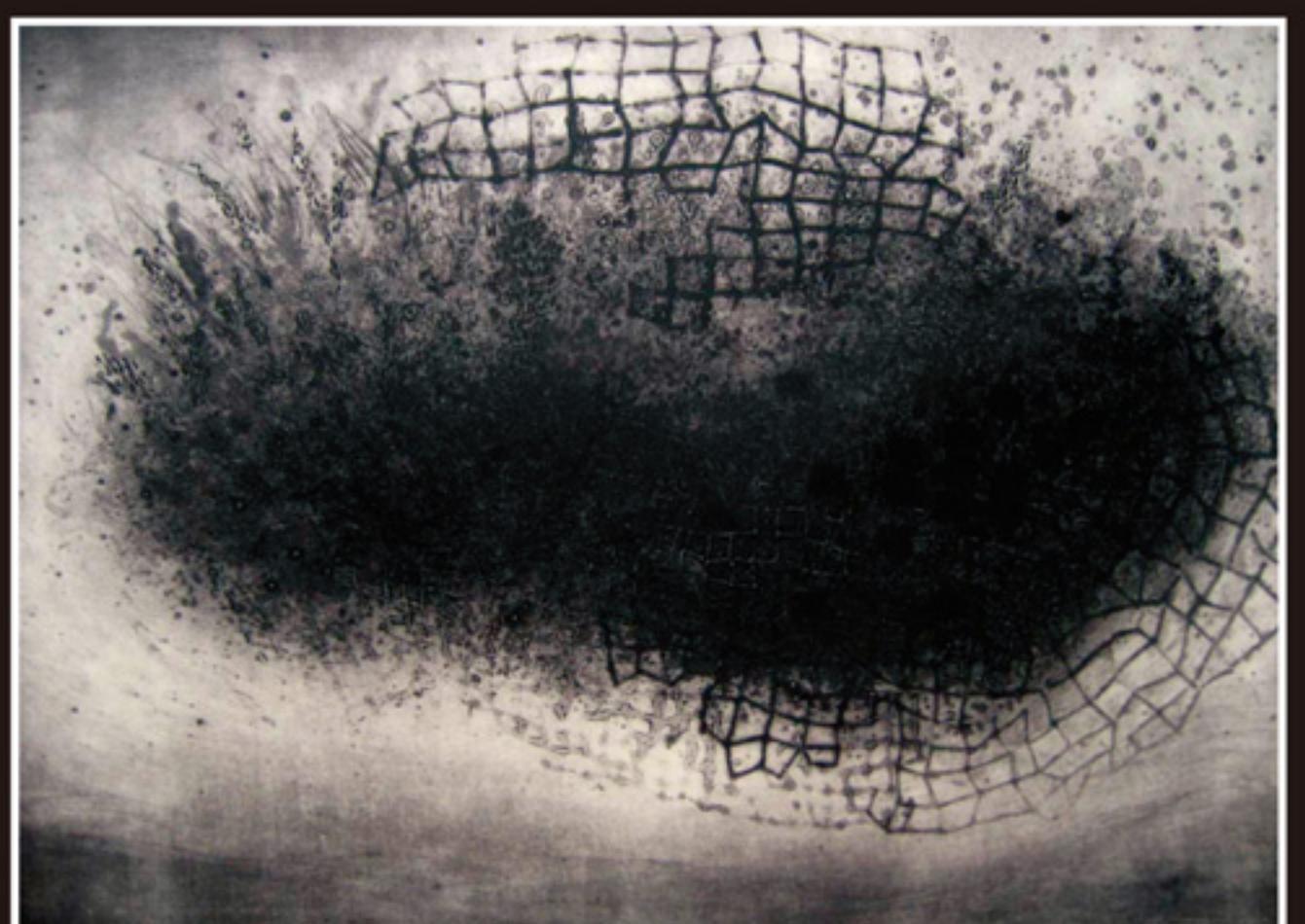
今回の特集は、今年の7月31日～8月12日まで京都市美術館にて開催された『日本・英国 国際版画展』の報告となります。また、作家紹介は本展覧会で『Moak Fund 賞』を受賞された本岡千尋氏と『アワガミファクトリー賞』を受賞された中橋靖彦氏と西住恵子氏の3名にお話を伺いました。それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆ Chihiro Motooka  
“夜の公園α”  
H37×W92cm  
etching  
drypoint  
2011



◆ Yasuhiko Nakahashi  
“丘の上の貝塚”  
H84cm×W54.5cm  
woodcut  
2012



◆ Keiko Nishizumi  
“浮き漂う”  
H78×W107cm  
collagraph  
2010

## ■ 特集 『日本・英国 国際版画展』 京都展報告

- 講演会について
- ギャラリートークについて
- ワークショップについて
- 展覧会で思ったこと

- 平木 美鶴 —
- 三宅 由里子 —
- 牧野 浩紀 —
- 有年 博行 —

## ■ 作家紹介

- Moak Fund賞
- アワガミファクトリー賞

- 本岡 千尋 —
- 中橋 靖彦・西住 恵子 —

## ■ 活動報告

## ■ 揭示板

KYOTO 版画 2012

特集

## 『日本・英國 国際版画展』

京都展報告



### 講演会について

平木 美鶴



第1部講演会

一年に一度開催される版画京都展実行委員会主催の国際版画展は今回の英國も含めて六カ国との交流を果たしてきました。この国際版画展の特徴としては毎回交流国の作家を招待してギャラリートークや講演会を開催していることです。この講演会を聞くことで交流国作品への理解と興味が違ってくるので私はこの講演会を毎回楽しみにしています。前回のボーランド展では、歴史と実績を持つクラクフ国際版画トリエンナーレの歩みと現況を知り、現代中欧における版画の動きを理解する機会となりました。

普段知ることのできない国の版画事情を知ることができ、こんなチャンスを逃すはもったいない話です。今回も興味深い英國版画の歴史や現況を聞くことができたので、その内容を雑感も含めて報告します。

第一部は、法政大学講師の板橋美也さんより「二〇世紀前半の日英版画交流」についての講演でした。

百年前から日英の版画交流があつた事とその背景について英國での緻密な文献調査を基にした研究発表で聞き応えのある内容でした。

第一部は、法政大学講師の板橋美也さんより「二〇世紀前半の日英版画交流」についての講演でした。

百年前から日英の版画交流があつた事とその背景について英國での緻密な文献調査を基にした研究発表で聞き応えのある内容でした。

第三部は、モニカ・ペツツアルによる「英國版画制作の現場」という話です。彼女は、作家であり画廊主、大学教授でもあります。

最初に彼女が話した事は、「英國の美術大学の卒業制作において額に入った作品を見たことがない。」

でしたが、私が英國へ在外研修で滞在していた一九

九七年当時も同じでその年のターナ賞受賞作品すべてが映像や立体作品であったことを受けて絵画は死んだのかというテレビ討論会をしていたぐらいで

す。中に平面作品があつても例えばダミアン・ハ

ーストのスポット・ペインティングのようにヤング・

ブリティッシュ・アーティストのコンセプトが含まれていたものでした。

そのことから考えると今回の作品は、額に收まりすぎているのではないとも思っていましたが、モニカ・ペツツアルの建物が焼けた灰を作品に使ったアン・ノーフィールドの作品やレーザーカッターで切り抜いたジエニー・スミスの影を見せる作品の説明を受けて納得しました。講演後に再度、新たな目で展覧会を見ると、ジエニー・ウイナーの名画を図法的に別角度で捕え直した作品やティモ・レートネンの移民者の文化的アイデンティティ示すようなヤムイモを使ったスタンピング作品等が気になる作品となりました。

新たなる目で見る、これも講演会の効果です。

私は京都版画に参加させて頂く事となり、国際版画展は二度目となります。

今回の日本・英國国際版画展での作品は、前回のボーランドとはまた異なった特色を持ち、日本の風土や趣き、個性を感じ、とても刺激を受けました。大胆で迫力のあるものから、繊細の中にも空間を大きく捉えたもの、いづれも版という枠を超えたアート作品であったと思います。展覧会のイベントの一つにギャラリートークがあり、顔を出させて頂きましたが、強く印象に残っている事は、日本の通訳した。幾人かの英國作家が作品の前で説明をしていましたが、強く印象に残っている事は、日本の通訳の人以上に、日本語が堪能な作家や英國の人の中に日本語が話せる人、通訳の人が見えた事です。エッチングやスクリーンプリントを取り入れ、それを何版かに重ねあわせ制作した作品がありました。作品を説明する時、版画を制作している人には理解しやすい内容が、一般的人には難しく、さらにそれを通して日本語が話せる人、通訳の人が見えた事です。エッチングやスクリーンプリントを取り入れ、それを何版かに重ねあわせ制作した作品がありました。作品を説明する時は大変な事であつたのではないかと思いました。通訳の人の説明を彼らが補う事で、作家の意図を上手に伝え、作品内容を分かりやすく説明する形となりました。参加した人達は、新たな版画に触れる機会となり、さらに興味を持った人も多いのです。私は自身もその一人になつた事に嬉しく感じています。

### ギャラリートークについて

三宅 由里子



ギャラリートーク／写真撮影（上段、中段）：有年博行

八月十二日に京都市美術館で水を使用しないウオータレス・プライウッドグラフは新しい現代木版画技法であり、まだあまり知られていない手法だと思いまが、非常に簡単に版木からリトグラフの特徴を活かした表現が可能で、手書きで描いた線が木版の上で展開できる画期的な技法です。

この技法研究者としては現在、多摩美術大学准教授の佐竹邦子先生。関西では京都精華大学版画コース教授の武藏篤彦先生があげられます。この技法に限らず美術家達が版画技法を研究し、現代の新しい版画表現の可能性を開いています。

また当日、ワークショップ参加者が六十人を越えたという事で、その一躍を担えたことに大変感謝しています。

今後も様々な『版画』に触れる事ができる機会を作れるよう、努めていきたいと思います。

## ワークショップについて

牧野 浩紀



ワークショップ  
写真撮影：二階武宏

## 作家紹介

本展覧会では優秀な作品を制作した作家へ各賞が贈られました。優秀賞とギャラリーヒルゲート賞を受賞された作家は次号から紹介致します。

### <受賞者>

MoakFund賞  
本岡千尋

### 優秀賞

謝敷ゆうり・伊藤尚子  
ギャラリーヒルゲート賞  
岩崎咲子・三宅由里子  
アワガミファクトリー賞  
西住恵子・中橋靖彦

## Moak Fund賞

# 本岡 千尋

Chihiro Motooka  
銅版画



'88 兵庫県出身  
'12 京都造形芸術大学大学院修了  
'11 KYOTO版画新鋭展  
'11 大学版画展買上賞  
'12 日本・英国 国際版画展 Moak Fund賞

Q4..今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)  
これからも制作をつづけていきたいと思っています。  
月や電灯といった灯りはどのようにお感じですか。  
くらがりを照らすことは、自分の記憶や感情をよ  
く見ようとすることに似ているとおもいます。やみ  
の中で照らされたものは、あかるい日のなかで見る  
よりもずっと見にくく確かめられないものです。そ  
れは鮮明には思い出すことのできない記憶と似てい  
るようになります。

らえにくさをきっかけに私の内面世界にひきよせら  
れ、私の内面世界に近づいてくれると考えています。



Q1..版画制作を始めたきっかけを教えてください。

## アワガミ ファクトリー賞

# 中橋 靖彦

Yasuhiko  
Nakahashi  
木版画

'43 旧樺太豊原市出身。  
一圓達夫氏・黒崎彰氏に  
木版画の指導を受ける。  
'11 第79回日本版画協会展  
'12 日本・英国 国際版画展



「湿原の記憶-2」 縦300×横33センチ 水性木版 100-0

Q2..ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大切だと考へていることを教えてください。

Q3..今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)  
この歳になつても、子供の頃初めて年賀状を摺り上げた瞬間の感激は忘れられません。バレンを十分に利かせた後、そつと和紙をめくる時のあの「ドキドキ」を、これからも感じ続けられたら言うことは

ここ数年、デッサンをしていると何やら現れるものがあります。どうも、それは私が三十暮らした北海道の街の郊外に広がつていた湿原地帯のように思われます。漠然としたそのイメージを、何とか版画の中に定着させようとしています。

Q2..ご自身の作品のテーマやコンセプト、最も大切だと考へていることを教えてください。

Q3..今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)  
この歳になつても、子供の頃初めて年賀状を摺り上げた瞬間の感激は忘れられません。バレンを十分に利かせた後、そつと和紙をめくる時のあの「ドキドキ」を、これからも感じ続けられたら言うことは

Q2..ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大切だと考へている事を教えてください。

夜の公園をかくことで、夜の公園にみつけた自分知り、そこから版画に興味を持ちました。そして三年生から版画を学びはじめました。

大学に入学してまもなく学内の版画工房のことを知り、そこから版画を始められたきっかけを教えてください。

Q1..版画制作を始めたきっかけを教えてください。

Q2..ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大切だと考へている事を教えてください。

夜の公園をかくことで、夜の公園にみつけた自分知り、そこから版画に興味を持ちました。そして三年生から版画を学びはじめました。

大学に入学してまもなく学内の版画工房のことを知り、そこから版画を始められたきっかけを教えてください。

Q1..版画制作を始めたきっかけを教えてください。

Q2..ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大切だと考へている事を教えてください。

Q3..今後の夢をお聞かせください。(作家活動以外でも)  
この歳になつても、子供の頃初めて年賀状を摺り上げた瞬間の感激は忘れられません。バレンを十分に利かせた後、そつと和紙をめくる時のあの「ドキドキ」を、これからも感じ続けられたら言うことは



「浮き漂う」 H78XW107cm コラグラフ 2010

'86 兵庫県生まれ  
'11 京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程 修了

'11 「版画四人」展／ギャラリー恵風  
「版画三人展-プレス機の向こうに-」／ギャラリーシュタイネ

Q1..版画制作を始めたきっかけを教えてください。

もともと、洋画コースで大学を入学したのですが、三年生の時に版画コースを選択できるということでおもに変えたくて版画コースを選択したのがきっかけです。

アワガミ  
ファクトリー賞

# 西住 恵子

Keiko  
Nishizumi  
コラグラフ

# ○『日本・英国 国際版画展・京都展』 で思ったこと 有年 博行 ○

2年に1度の国際展も6回を数えるに至り、しみじみとよくぞここまで来たものだと感慨もひとしおといったところですね。

ひとえに会員諸氏の献身的な活動があつてのことと敬意を表します。なかなかできませんよ、これ程の大事業は。多分いや確実に日本版画史に名を刻むことでしょうね。そして私を含め会員のみなさんの名前が残されていくことに喜びを感じます。何故こんな活動をしているのか?さらには今後どのように発展させていくのか?会員一人ひとりが考えていかなければいけない節目にさしかかっている気もします。まあそれほど深刻に考えなくてもいいのですが、個人個人の活動をまとめていく作業の集約の結果としての展覧会であればいいかなあと思います。継続していくこと、地道な活動をみんなで支えていければきっとまだまだ続いていると思います。長生きをしなくちゃね。

さて展覧会の感想ですが、第一に思うこと、英國作家の作品は堅実、かつ技法的にアカデミックで確かな技術の高さを感じます。さらに作品制作の基本的な姿勢に生真面目とさえいえる真摯さに感銘を覚えます。これまでの国際展でも感じたことですが、それぞれの地域の気候風土といったものが色濃く反映されています。もちろん文化的な、そして歴史的な背景も含めてのことはいうまでもありません。作家の精神性は日々の営みから生まれてくるものです。そこにテクニックが加味されて版画作品として誕生します。



会場：京都市美術館外観

話はガラリと飛躍しますが、英國において版画は芸術としては一段低いところにおかれているそう、これは日本も変わりませんね。何故でしょうね?思うに print という単語に原因の多くがありそうです。いわゆる印刷ですね。版画は印刷技術の発達と密接に関わってる以上、印刷の持つ安価なイメージがついて回ってるわけですね。大衆はどこまでが版画でどこからが Print なのかわからないわけです。しかも商業ベースに乗って法外な値段で似非芸術を画商は売るから、ますます大衆は混乱するわけです。版画家という職業は今の世界では存在しません。

私の友人で版画一本で生活している人が何人存在してるでしょうか?かくいう私も教育に携わって飯をくってる。版画に限らず芸術で飯を食うつてことは奇跡としか言えない。経済活動に芸術は組み込まれていないのです。音楽や演劇や著作関係は別です。これらはシステムが違います。

同列では扱えません。何とかならんものか?美術館に作品を並べてみても、これが版画芸術だと主張してもシーンと漂う空虚感は私だけでしょうか?画商さん、美術評論家さん、芸術関係者さん、そして政治家さんや行政に携わる皆さん、何とかしてくださいよ。ははは思いつき愚痴つてやった。

ごめんなさい。版画展の話のはずがこんなことになって。まあ四方山話ということでお許しください。一版画人の戯言ですから読み飛ばしてお忘れください幸いです。しかし腑に落ちんことばかり。続きは次回ということでお精読ありがとうございました。ではまたね。長生きするんだぜえ。



搬入後の集合写真 写真撮影／左右／有年博行

## 版画京都展実行委員会

## 活動報告

展覧会名：第4回 ポレポレ展

日 時：2012年9月1日(土)～9月12日

会 場：JARFO

会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町81

出 品 者：斎藤修 坂爪厚生 佐久間嘉明 田島征彦 武藏篤彦  
山本桂右(50音順)

スワヒリ語でゆっくり、ぼちぼち、という意味のポレポレという言葉を冠した展覧会が残暑厳しい9月上旬、京都三条のJARFOで開催されました。4回目となる今回の出品者はみな数十年のキャリアを持つベテランばかりで私のを除いてはどれも技術、内容ともに高いレベルの作品が並んでいたと思います。初日のオープニングパーティーにはたくさんの人が集まりにぎやかな夏の終わりのタベとなりました。

(文：写真撮影／山本桂右)



## 掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。  
詳細は会場へお問い合わせください。

### ●角間貴生

<角間貴生ART展>

会期：2013年3月19日～3月31日

場所：It's gallery(イッツギャラリー)

〒812-0026 福岡市博多区上川端町11-289B1F

TEL: 090-4587-6141(稻尾)

<角間貴生アート展>

会期：2013年5月7日～5月12日

場所：ギャラリーヒルゲート2F 〒604-8081

京都市中京区寺町三条上ル西側

TEL: 075-252-1161(2F)

### ●濱本澄江

<濱本澄江ペーパースクリーン版画展>

会期：2013年5月13日～5月18日

場所：シロタ画廊 〒104-0061 東京都中央区銀座7-10-8

TEL: 03-3572-7971

### ●ふじいみよこ

<ふじいみよこ 銅板画&アクリル展>

会期：2013年1月10日～1月15日

場所：ギャラリー尋屋 〒460-0008

名古屋市中区栄3-31-3 コンフォレスト尋屋ビル5F

TEL: 052-262-6800

### ●ツツミアスカ 他20名

<Print Art Triennale in Kyoto>

会期：2013年2月23日～3月24日

場所：京都市美術館 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝町124

TEL: 075-771-4107

### ●牧野浩紀

<牧野浩紀 個展>

会期：2013年1月8日～1月19日

場所：養清堂画廊 〒104-0061 東京都中央区銀座5-5-15

※1月12日(土) 16:00～ワークショップ

### ●坂爪厚生・田島征彦・二階武宏

伊藤尚子 他18名

<TAROT×22artist×LADS>

会期：2013年3月19日～3月31日

場所：LADS ギャラリー 〒553-0003

大阪府大阪市福島区福島3丁目1-39

TEL: 06-6453-5706

<TAROT×22artist×ヒルゲート>

会期：2013年4月23日～4月28日

場所：ギャラリーヒルゲート 〒604-8081

京都市中京区寺町三条上ル西側

TEL: 075-231-3702

※各画廊での展示内容は異なります。

## 編集後記

『日本・英国 国際版画展・京都展』は関係者皆様のお力添えのおかげで、無事終了することが出来ました。誌面にて改めてお礼を申し上げます。さて、今年はあまり花が咲かなかった我が家のミカンの木ですが、いつの間にか実がなっていました。今年もおいしく食べられることを願っております。

会報担当：ツツミアスカ(編集)、三上景子、竹本千明 発行：版画京都展実行委員会 問い合わせ先(事務局)：075-956-6910

